

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 欠席委員連絡（工藤 篤委員）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

(1) 救急医療体制の確保に関するドクターヘリおよびドクターカーの効果的な活用について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、11月4日から6日の日程で、宮城県、青森県および八戸市に対して行政調査を行った。各自治体の取組は非常に参考となり、大変有意義な調査であったと考えている。
- ・ 本件に係る行政調査報告書は、後日配付させていただくが、取り急ぎ各委員には調査内容の概要を取りまとめた資料を配付させていただいたところである。
- ・ 本日は、これまでの協議や今回の行政調査を踏まえ、調査のポイントとしていた、地域の実情に合わせたドクターヘリおよびドクターカーの運用実態やドクターヘリにおける広域連携の状況を中心として、本市の救急医療体制を確保していく上での考え方や今後の取組の方向性について、委員の皆様から御意見やお考えなどを伺ってまいりたいと考えているが、いかがか。（異議なし）
- ・ それでは、各委員から御発言をお願いします。まずは全体を通して何かあるか。

○吉田 崇仁委員

- ・ 東北3県を回った中で、宮城県、八戸市、青森県、どの病院にもドクターヘリの格納庫さらには駐車場があった。私が思うのは、将来このドクターヘリが中止ということは考えられない中で、現状聞くと相当高額な家賃で、賃貸料もその中で果たしてやっていけるのかどうか。できれば函病の中にドクターヘリを置くような施設ができないものか。
- ・ 2点目は適正な賃貸料というか、何か足下を見られているような感じで、相当高額な5年で1億円、それが何十年も続いたら、函館市の財政にも相当負担がかかっていく。まして人口減少の中で、今後患者も減っていくと私は感じている。そうした中で果たしてこれがいいのかどうか、適正な価格かどうか、もう一度改めてこの点調査するべきだと思う。

○山口 勝彦委員

- ・ 東北3県調査して、八戸市で一番感動した。この救急医療のドクターヘリとドクターカーについても、それなりに知っていたつもりが、やはり八戸の場合は現場の特別熱意があったものを感じて、そのあと宮城県へ行ってやっぱり温度差がある。八戸に関しては次世代の若い人の育成に特化している部分を非常に感じ取って、次の宮城県庁へ行ったけれども、青森の差と青森県との問題、委員もたくさん質問した中で疑問点等々あるが、いずれにしても函館に、北海道にこんなすばらしいものがあるにもかかわらず、なぜ対応できないのかという思いで帰函した。得るものは非常に大きいものがあ

て、市民はこの重要性に関して知らない人は知らない、意外と弱いのかなど。表面では知っているだろうが現実分からないのかなという思いで帰ってきた。吉田委員が言うような問題もあったし、いろいろな問題が管内にはあるが、細かく言えばもう少し吟味して対応してもっと拡充できればいいという思いで帰ってきた。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他県との広域連携について工藤恵美委員もいろいろ聞いていたが、その辺どうだったか。

○工藤 恵美委員

- ・ まずは八戸の取組に驚き、八戸市立市民病院は医師会がしっかりしてるんだなと思ったし、人口は函館より少ないにも関わらず取組自体一生懸命やっていたと思う。それとヘリコプター見たら函館より小さいので、遠い距離は行けないんだなと思った。やっぱりよくも悪くもきちんと活用できるかできないかというのは人だなというのは改めて感じさせてもらった。あと青森県と宮城県、県庁がやっているというまさにイメージどおりの取組だったと思うし、国がやれというからやっているみたいな感じが見受けられたが、下北半島と函館の津軽海峡を挟んでの連携はできないかと聞いたら、できないと言われてそのままだった。
- ・ 要望としては吉田委員が言うとおおり、格納庫の家賃の大変さというのは函館市だけで持つものではなくて、やっぱり渡島半島に対して、うちは奥尻までドクターヘリが行くから、北海道のほうに要請活動するべきではないかと思った。

○川崎 啓太委員

- ・ 皆さんおっしゃったようにかなりお金のかかることで、今後を踏まえたら、やっぱり導入のリスクは一定程度考えなくては駄目というのがありますが、ただ八戸市立市民病院の事例を見ると、現場の方、医師と協力できるのであれば、あのような運用もできるのかなとも感じたが、いろいろ函館市と比較して八戸の事例というのは、病院が土地を持っていたり比較しにくい部分があると思った。例えばドクターカーのサイレンの話も、函館も未来大や高専があるので、ああいった取組もそれはそれでできるのかなとか、行って感じたのは一長一短かなりあるということである。例えば医師会なのかちょっと分からないが、函館病院ときちっとやっていけるのであれば、オーバートリアージの問題とか、制度化というか対応できる仕組み化をしていって、コストを限りなく抑えられるような形で運用できれば、道南も雪の影響とかでヘリが飛べないとかいろいろあるので、ドクターカーを含めてあったほうがいいとなると思う。ただやっぱりコストを含めたリスクもあるというのも感じた。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 八戸で年間1,500万円ぐらいの運用経費と話していた。初期投資が400万円、車が2台あるが地元の社長さんが寄附してくれたりというので、改装費で400万円かけて年間は1,500万円ということで、赤字運営だったのがドクヘリ、ドクターカーを始めて黒字に変えていったという話に関してはどうだったか。

○川崎 啓太委員

- ・ これを言ってもしようがないが、現場の思いと行動力があつたからこそ、病院という施設の物理的なものとの足し算ではなくて掛け算ができていたというのをすごく感じた。これが函館で出来るかと言われると、様々な協力体制が必要だという感じである。

○富山 悦子委員

- ・ 私も一番感動したのが八戸市立市民病院。独自でいろいろな構想を練ってこの体制をつくったということで、建物を見ても病院の周りに保健所やら、立派な保育所もあったし、病院の周りが見渡す限りそういう関係の公共施設が建っていて、いろいろなことでツーカーとなっているのかなど。病院に入ったら物すごい活気、病院に活気があるというのもおかしいけど、働いている人たちはそういう感じだった。説明してくれた救急センターのドクターも全てを私たちに分かるように話してくださって、救急体制が本当に違うんだなど。独自で専任のドクターがすごい人数、それから看護師も100人近くという救急体制の中できちっとやっている。そういうところとかも、本当にこれはお金がないとできないし、誰かがノウハウを伝えないとできないと思った。その辺がすごく感動で、では函館市はどうなんだろうかと思ったときに、たったドクター9人かそこらで、そしてほかの病院から当番で来てというその救急体制はやっぱりよくないと思っているので、その辺をどうしたらいいのだろうかと。お金がないとちゃんとした体制ができないと思った。
- ・ 吉田委員が言った格納庫、私も前回予算に賛成したが、場所をちゃんと見るべきだと思う。今回環境部でも津波対策として、1メートルから2メートル、今海の近くでどんなふうになっているのかとか、災害時どうなるのかとか、何かもう少しきちっと検証して考えなくてはいけないと思った。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 市立函館病院にドクターヘリがあって、函館市民が利用するというのはほとんどないようなもので、道南圏域のドクターヘリということで、市立函館病院は今も赤字で、そういう中で吉田委員が言ったように格納庫は絶対必要で、そのお金を函館市だけで持つという。申し訳ないけど利用した方々から、よく登山で遭難した人からお金を取るというのがあるが、医療だから、まさかドクターヘリを使った人からお金を取るわけにはいかないと思う。なのでそういう意味では、函病にドクターヘリがあるというのは、道南医療圏を守っているという函病だから、それを考えたら函館市以外の近隣のドクターヘリを利用する町村から、個人は難しいので、役場から応分というか、多少は負担もドクターヘリに関してはあるけれども、今この格納庫に関してもあるのも、もう少し皆様方の負担を増やしていただくとか、そういう形も考えてもいいのではないかと。道南の医療圏を守っているのは函病で、そのためにドクターヘリも使っているという。ドクターヘリがないとみんな困るわけである。だからもう少しその辺りの負担をいただいてもいいと思っている。
- ・ ドクターカーもすごくいいと思うが、何せお金のかかることで、今すぐどうこうというふうにはちょっとならないかなとは思っているので、まずはドクターヘリの順調な運航ができる体制の確保、それが大事かなと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 函館は定住自立圏で各市町から出し合っというような財源でやっていて、八戸市も初めは定住自立圏でやっていて連携中枢都市圏に移行して、そうすると財源が変わってくるみたいで、それに移行して、今その中心地にお金が入ってくるような財源になって、それをうまく利用しているという話もしていたので、函館はまだ定住自立圏なので、移行できるかどうか。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 早く移行して、中心の函館にもらえるといいよね。

○吉田 崇仁委員

- ・ 先ほど工藤委員や斉藤委員からもこの件で話があったが、函館市はやっぱり救急車が多い。奥尻だとか八雲、長万部、本当に遠いところがこのドクターヘリを使うということになれば、今のそれぞれの市町村の配分がこれでいいのかどうか。今後函館に負担がかかるようであったら困るから、できれば宮城県、青森県のように広域連携で、道が主体となってドクターヘリをやるべきだと私は思う。函館独自で持つものではないと感じる。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 財源の部分はまた別に置いておいて、いろいろ負担の部分は、我々が考えている部分とまた違った形もあると思うので、そこはまた話すが、今、函館病院独自でドクターヘリも運航できる体制までできているような話もしているの、各病院から先生に来てもらってという形になっている。調査の中ではドクターカーという話も聞いて、先ほど斉藤委員からもドクターヘリは函館でほとんど飛ばないという、そこをドクターカーで、診療報酬だとか賄っていけるような体制を組むだとか様々考えもあると思うので、今回の八戸市立市民病院を調査してその辺は勉強になったと思っている。八戸はあそこしか病院がないので、あそこに集中するというのが特徴でそれだけ黒字化できたという話もあるが、函館は病院が多いのでそこはまた別だが、いろいろその辺も比較しながら勉強になった部分はあったと思っている。

○道畑 克雄委員

- ・ 私は残念ながら行政調査参加できなかったが、資料を読ませていただいて、丸抱えと言ったらあれだが、県がやっているのと定住自立圏でやっているのはちょっと趣が違って、行政調査された県はかなりいろいろな方たちが人材も含めて緊密にしているから、微に入り細に入りみたいなことも含めてやれているのだろうというのがある。なので、ドクターカーの問題も含めて、もう少し近隣の町村と救急医療の関係について、負担の在り方も含めてさらに議論を進めて、市立函館病院だけの負担にならないようにやっていけるような、定期的にそういったことがやっていけるような仕組みも必要かなと。函館だけでドクターカーいいじゃないかとなっても、なかなかそういうわけにもいかないだろうけど、そういったものについては地域ぐるみとか道南ぐるみで検討していける部分があったらいいと思った。

○工藤 恵美委員

- ・ 防災対策で北海道が一生懸命やっている。駒ヶ岳噴火したらどうしたとか恵山が噴火したらとかやっているから、災害があったときにはドクターカーとかドクターヘリが最前線で、まずは命を助けなきゃということで出動しなければならないとすれば、北海道と話し合っただけではいけない。いざとなったときに困らないように今からやるべきで、北海道に要請したほうがいいと思う。函館のドクターヘリとドクターカーを見てたら、五稜郭病院にドクターカーがあるね。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ ドクターカーにもいろいろ種類があって、五稜郭病院は病院同士で運ぶドクターカーで、八戸は患者のところに飛んでいくドクターカーがある。

○工藤 恵美委員

- ・ いろいろ取組を各地やっているということなので、函館が先進的にできたにもかかわらず財源の間

題でなくなったということのないようにしなくてはならないと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 一通りお聞きしたが、他の委員の発言を踏まえ、さらに何か御発言はあるか。（なし）
- ・ 次に、今後の調査の進め方について各委員に御相談だが、正副としては、次回の委員会でこれまでの調査や本日いただいた御意見等について取りまとめたものを正副で作成し、今後の取組の方向性などについて皆様と協議を行ってまいりたいと考えているが、そのような進め方でよろしいか。（異議なし）
- ・ 本件については、今後の取組の方向性などを整理するため、委員会の閉会中継続調査事件とすることよろしいか。（異議なし）
- ・ 閉会中継続調査とすることに決定した本件については、先ほどの理由をもって議長に申し出たいと思う。これに御異議あるか。（異議なし）
- ・ その他、本件について、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 私から1点、皆様に御協力願いたい。今ドクターヘリの調査事件をやっているが、来年は改選期になるので少し早めに進めたいと思う。年明け早々には来年の調査事件の項目を考えていきたいと思っているので、皆さんの御意見等あれば、このような調査はどうかということ伝えていただければと思う。1月中旬くらいまでにその辺の意見を事務局に伝えていただければと思うので、よろしくお願いする。
- ・ 散会宣告

午前11時59分散会